

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育センターみらい		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 4日 ～ 2026年 1月 23日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2026年 1月 4日 ～ 2026年 1月 23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・アセスメントからプログラムまで、しっかり個々に応じたものが実施されている。	・AIによる分析と、個々の保護者との面談を通して、より多面的で総合的に個々の課題を把握したうえで、目標を定めていけるようにしている。	・個々の現状のみならず、少し先、将来的な姿もイメージしながら、今必要な支援を計画に盛り込み、実施できるよう努める。
2	・活動に応じた空間の構成がされている。	・机上課題や、見たり聞いたりを楽しめる課題に集中しやすい部屋と、大きく体を動かしたり、動きやルールのある遊びができる部屋を分けて、環境の構造化に努めている。	・荷物の整理、排泄・手洗いなどの動線がわかりやすいバーテーションの使い方や、手順がわかりやすい視覚手がかりなど、個々に応じてカスタマイズできるよう工夫していく。
3	・就学に向けたペアレントトレーニングが行われている。	・月に1回の実施だったので、月毎、就学に近づく時期、タイミングに合わせて内容を構成して行った。子どもの褒め方・関わり方等についての内容に加え、就学相談、就学前検診が行われる頃などタイムリーな話題をとりあげた。	・開催日に都合があわず、参加できなかった場合のフォローや、毎回の参加が難しい方への対応も、何らかの形で補えるよう検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会、保護者会等の開催ができていない。きょうだいへの支援、交流の場を設けていない。	・親子療育を主としているため、保護者同士の交流は昼食後や自由あそびの時間等に自然にてもらっている。しかし、多くが母親で、父親の参加は少数になるので、機会が限定されてしまう。	・父親の会を、今年度2日設けてみたが、場所がみらいでの開催ではなかった。参加しやすい時間帯の工夫、頻度、告知のタイミングなど検討していく。
2	・オクレンジャーの利用がしにくい。	・双方向のやりとりがタイムリーにしにくい。 ・保護者に費用の負担がかかる。	・令和8年度より、徐々にオクレンジャーの利用から、公式LINEによる発信や連絡体制に切り替えていく。
3	・地域の幼・保・こども園の子ども達との活動や交流がない。	・療育日以外は、地域の幼・保・こども園に通っている子がほとんどなので、療育日を交流にあてる活動計画はしていない。	・園の中での子ども同士の関わりや、園のイベントや行事への参加の仕方や様子など、随時担当の保育士さんと連携をとったり、療育の様子の見学にきてもらったりして、互いの活動の場で楽しめるよう取り込んでいく。